

平戸市では、2020年4月、2050年までに市内の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティひらど」を宣言し、地球温暖化対策に向けた取組みを行っています。

「ゼロカーボンシティひらど」の実現に向けては、2030（令和12）年度における温室効果ガス排出量の削減目標の達成や、2050年度のゼロカーボンシティひらどの実現に向けた取組みを効果的に推進するため、平戸市域全体における温室効果ガス排出量削減に関する「平戸市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」、市役所における温室効果ガス排出量削減に関する「平戸市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定しており、当計画に基づき、温室効果ガスの排出量を毎年算出しております。

## 1 平戸市域の温室効果ガス排出量について

「平戸市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」では、2050年の「ゼロカーボンシティひらど」の実現に向けた温室効果ガス削減の中期目標として、2013（平成25）年度との比較で2030（令和12）年度60%削減を掲げています。

2023（令和5）年度の平戸市域からの温室効果ガス排出量（推計見込値）は、再エネ導入や、地球温暖化対策にかかる各種取組みなどによる削減効果（貢献度）を踏まえると、推計見込値で98.5千t-CO<sub>2</sub>となっており、平戸市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の基準年度となる2013（平成25）年度の排出量と比較すると57%減少しています。

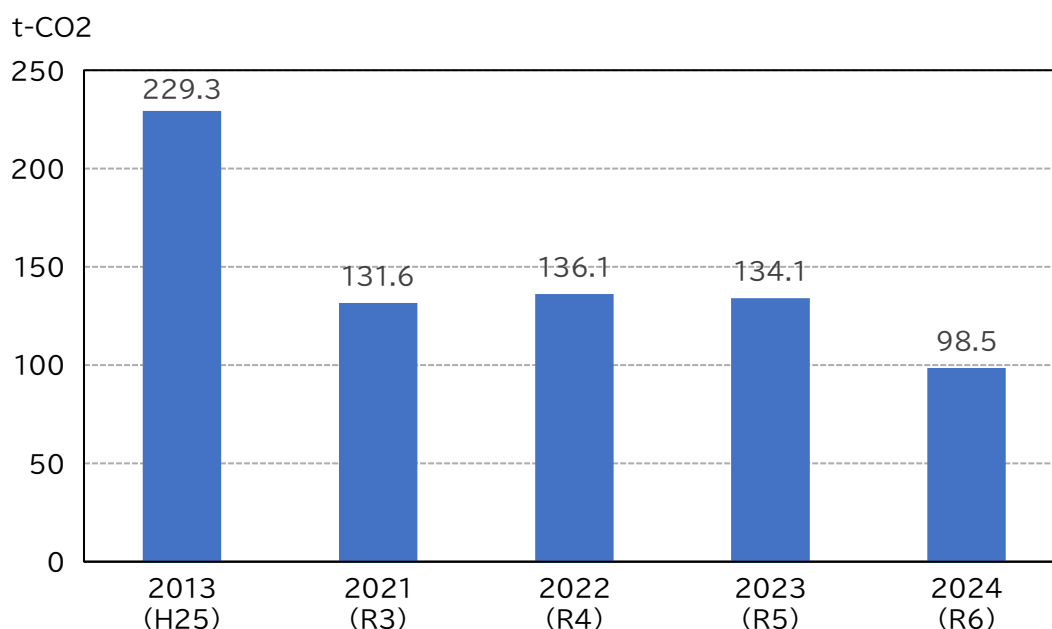


図1 平戸市域における温室効果ガス排出量<sup>※</sup>の推移

※温室効果ガス排出量については、再エネ導入や地球温暖化対策にかかる各種取組みなどによる削減効果（貢献度）を踏まえています。

※温室効果ガス排出量については、国、県等の統計データをもとに本市の社会・経済指数等で案分して算出するものが多く、最新の公表値は2022年度のものとなっているため、2023年度及び2024年度については、推計見込値となります。

表1 平戸市域における温室効果ガスの削減目標

項目	基準年度 2013年度実績	2024年度 推計見込値	目標年度 2030年度
温室効果ガス排出量※	229.3千t-CO <sub>2</sub>	98.5千t-CO <sub>2</sub>	91.3千t-CO <sub>2</sub>
2013年度比削減率	-	57%	60%

※再エネ導入、地球温暖化対策にかかる各種取り組みなどによる削減効果（貢献度）を踏まえたもの。

## 2 平戸市役所の温室効果ガス排出量について

「平戸市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」では、2050年の「ゼロカーボンシティひらど」の実現に向けた温室効果ガス削減の中期目標として、2013（平成25）年度との比較で2030（令和12）年度60%削減を掲げています。

2024（令和6）年度の市役所（※）における全体の温室効果ガス排出量は7,083t-CO<sub>2</sub>となり、国の基準年度となる2013（平成25）年度の排出量と比較すると26.0%減少しており、平戸市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の基準年度となる2019（令和元）年度の排出量との比較では12.0%増加しています。

温室効果ガス排出量が2023（令和5）年度比で減少した主な要因は、電気事業者の排出係数が下がったことや、施設の照明器具のLED化などによるものです。

※教育委員会、消防本部、病院局、水道局及び交通船を含む。

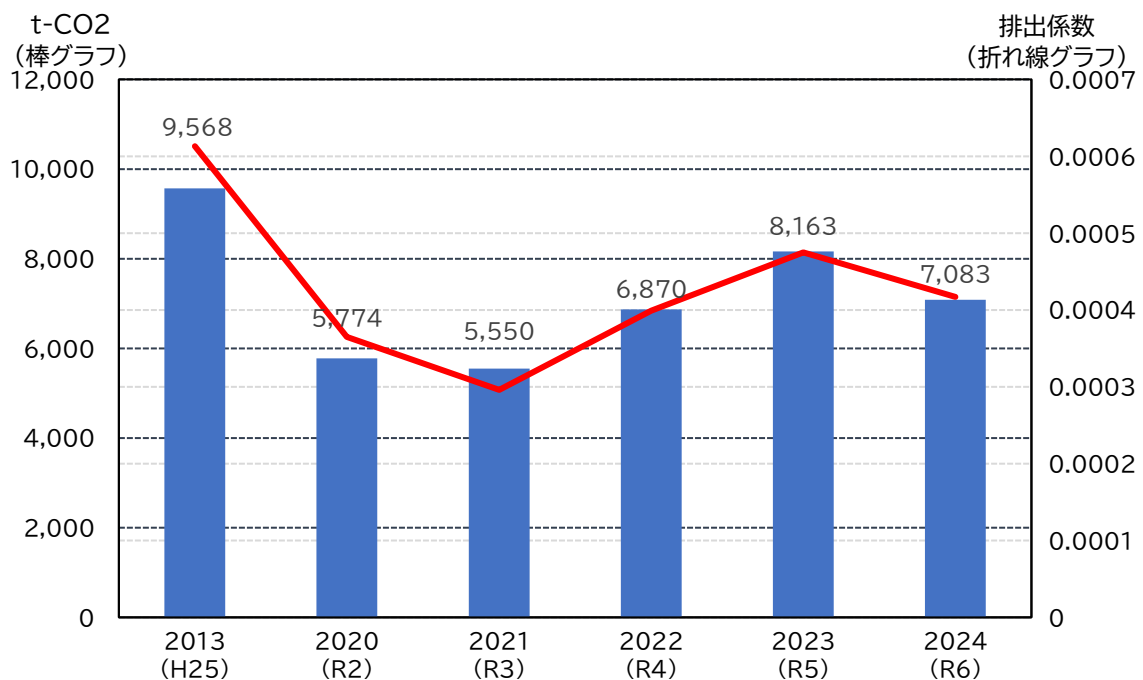


図2 平戸市役所における温室効果ガス排出量の推移

表2 平戸市役所における温室効果ガスの削減目標

項目	国基準年度 2013年度実績	市基準年度 2019年度実績	2024年度実績	目標年度 2030年度
温室効果ガス排出量	9,568t-CO <sub>2</sub>	6,323t-CO <sub>2</sub>	7,083t-CO <sub>2</sub>	3,827t-CO <sub>2</sub>
2013年度比削減率	-	33.9%	26.0%	60.0%
2019年度比削減率	-	-	△12.0%	39.5%

発生源別温室効果ガス排出量の割合については、電気の使用からの排出が最も多く、全体の64%を占めており、次いで燃料の使用からの排出が33%、自動車（公用車）の使用からの排出が3%となっています。

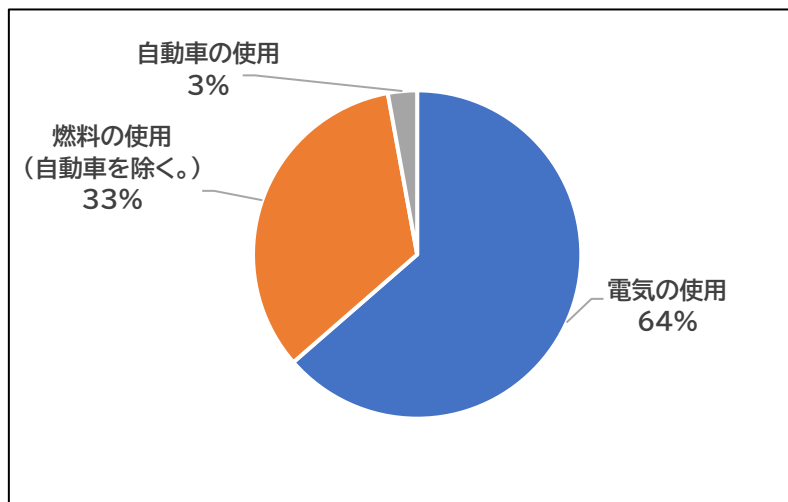


図3 発生源別温室効果ガス排出量の割合 (2024年度)

2024年度におけるエネルギー種別の温室効果ガス排出量の割合では、電気が全体の64%を占めており、次いで重油24%、灯油8%、ガソリン3%、LPG1%、軽油1%となっています。

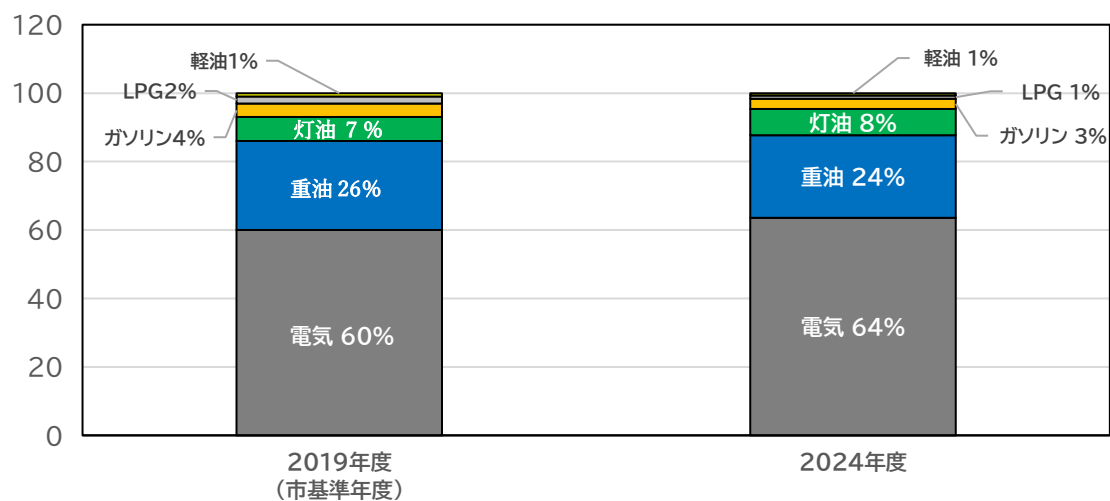


図4 エネルギー種別の温室効果ガス排出量の割合

2024年度における施設分類別の温室効果ガス排出量の割合では、交通船が全体の20%を占めており、次いで水道施設23%、病院施設15%、公用車7%、学校、庁舎及び観光施設5%、保健体育施設3%となっております。

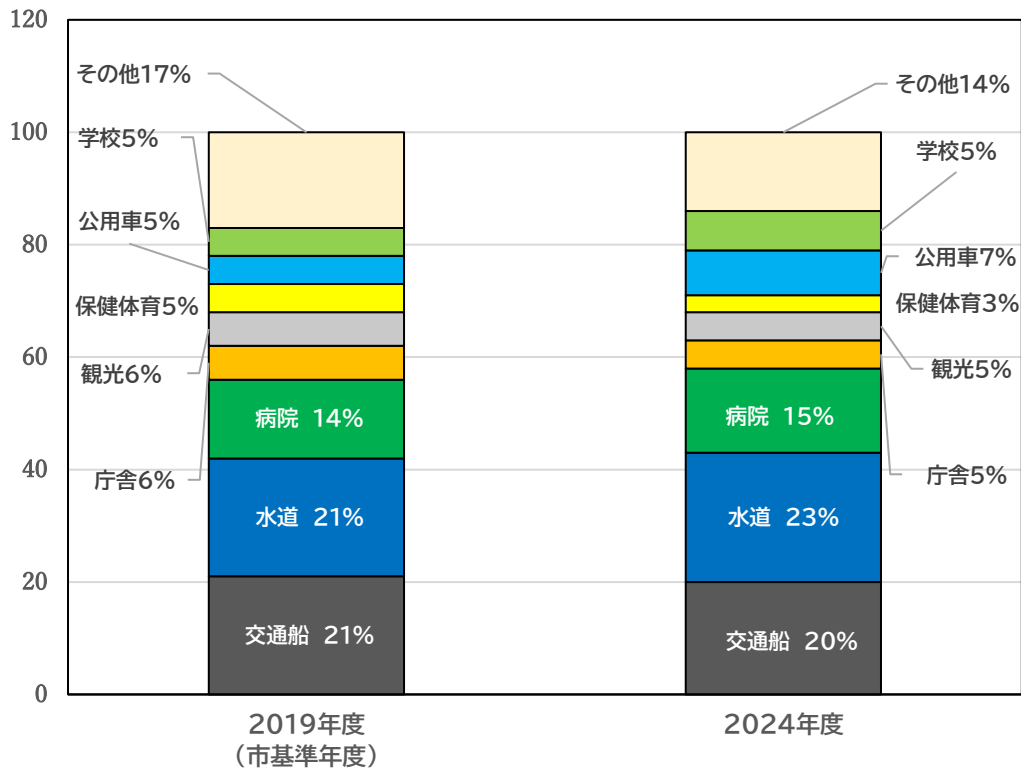


図5 施設分類別の温室効果ガス排出量の割合

### 3 2024（令和6）年度の総括及び今後の方向性

平戸市域における温室効果ガス排出量は、電気自動車、ハイブリッド自動車などエコカー等の買い替え、市民向け高効率給湯器の買替え等を支援する平戸市地球温暖化対策設備等導入促進事業の実施などの地球温暖化対策にかかる継続的な取組みのほか、大型風力発電所の設置・稼働による貢献により、大きな削減となりました。

一方、市役所における温室効果ガス排出量については、公共施設等のLED化、公用車の次世代化、廃食用油からなるバイオディーゼル燃料の利用など、継続的な取組みを行っているものの、主な増減は電気事業者の排出係数に起因している状況です。

今後も、平戸市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）、及び2030年度までにより重点的に取り組む施策を取りまとめた「平戸市地域脱炭素重点プロジェクト」のもと、目標達成に向けて、豊かな自然環境を保全しながら、市民および事業者の皆さんと連携・協力し、より一層地球温暖化対策に取り組んでいきます。